

令和元年度

学校法人北照高等学校 学校評価書

学校法人 北照高等学校
理事長 藤田 征晴 様

令和元年度学校関係者評価を、教員自己評価・校務分掌、学年の自己評価・生徒質問票による自己評価分析結果に基づき下記の通り取りまとめましたので報告いたします。

1. 学校関係者評価の実施について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、理事役員会及び PTA 総会を中止にしたため、下記役員に文書を回覧し、学校関係者評価を行った

- ① 学校法人北照高等学校理事・評議委員会の役員
- ② 北照高等学校 PTA 役員

2. 評価項目と評価内容

① 教育活動について

昨年度に課題として挙げていた授業規律の面では、校内における携帯電話の取扱いについて整理をしたり、授業の受け方に関する集会やホームルームを重点的に行ったりすることで、良い雰囲気での授業を行うことができるようになっていたとの報告があった。また、それに伴って生徒指導全般に関して良い効果が出ているようなので、評価をしたい。

学校で力を入れている基礎学力の定着に関しては、数値として示して頂けるとわかりやすい。今年度より、全教科でシラバスの作成を義務づけたこと、基礎学力診断テストの導入を行ったとのことなので、来年度にその結果を報告して頂きたい。

以上のように、何点かの要望はあるものの、令和元年度も設置している2つのコースの特性を生かして堅実な教育活動を続けていると感じた。その根拠として、進路・部活動等で前年度と同様に実績を残していること、学校行事も充実した形で終わることができている事が挙げられる。

② 生徒質問票の分析結果について

満足度の数値が、昨年よりさらに上昇し平成 27 年度の水準に戻りつつあることは評価できる。分析では、平成 27 年度以前と現在では満足度に影響を与える要因が多様化しているとのことであった。特に、質の高い授業や個別のサポートを求めているという部分が新に加わった。これに関して、生徒のニーズに学校として一定の対応ができてきているようなので、引き続き力を入れて頂きたい。

分析結果より、生徒の感じている北照高校の特徴は、生徒と教員間や生徒間の良好な人間関係、コースの特性を生かした教育である。学校は、生徒一人ひとりの性格や能力、過去の指導歴などをできるだけ把握し、それに合わせた教育活動をすることを目標に努力を続けて欲しい。

③ 総 評

令和元年度の教育活動を精査した結果、昨年度に本評価書において課題として挙げた部分にも迅速に対応していること、生徒の評価も高水準であること、進路や部活動においても生徒が目標を実現できたという結果などを鑑みて、良好と判断したい。今年度も「克己復礼」の校訓に基づき、親身に教育活動を行って欲しい。

上記の通り報告いたします。

令和 2 年 5 月 13 日

北照高等学校保護者と教師の会会長

川口 政康

